

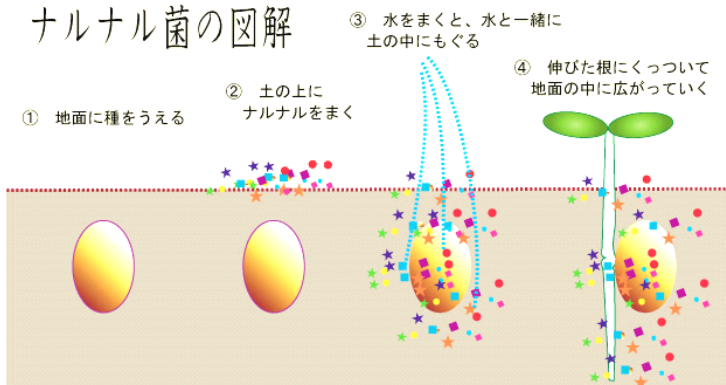
土耕菌ナルナルの使い方

主に2通りの使い方があります。

- ① ナルナル菌はエンドファイトとして植物の根に共生し、植物を元気にします。全植物に利用できます。
- ② もみ殻醗酵ボカシ肥作りの種菌として使う。

まず、①の使い方です。種を撒いたら、播種した後の地

ナルナル菌の図解



い。土壌殺菌剤(石灰含む)を使うとナルナル菌が死んでしまいます。木酢酢などの殺菌効果のあるものも使用しないで下さい。薬剤の葉面散布は可。水道水の場合、カルキ(塩素)を抜く事。樹木の場合、幹の根本に満遍なく、ぐるりと付着させて、水をあげて下さい。

モンパの場合は、幹の直径の3倍の面積に幹を中心に満遍なく散布して水をあげて下さい。

② もみ殻醗酵ボカシ肥の作り方。(例、100リットル作る場合)

どこにでもある、もみ殻を簡単に発酵させてボカシ肥として使うことができます。土壌の団粒化を促進して、フカフカの畑を作ることができます。(エンドファイト効果は不明。環境により仕上がりに差がある) 用意するもの 容積を基準に書いています。重さではありません。

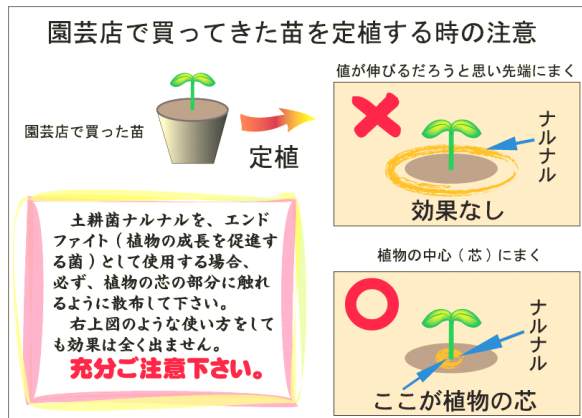
もみ殻醗酵ボカシ肥の材料

もみ殻 100リットル
ナルナル菌 10リットル
米糠 20リットル
水 20リットル

◎材料をよく混ぜて下さい。混ぜたら、紙の米袋、土のう袋、洗濯ネット、段ボール箱などに入れ、静置して下さい。寒い場所では発酵熱が逃げますので、毛布などを掛けて寒気から守って下さい。1~3日で発酵熱が50度位に上がり、醗酵が完了すると自然と熱が下がります。外気温にもよりますが、3日~10日程度で完成し、発酵熱がなくなったら、すぐ畑にまけます。【注意】発酵させる容器として、ビニール類は使えません。通気性、通水性のあるものをご使用下さい。出来たものは、ネズミに注意して水に濡れないように保管下さい。作れる量はナルナルの元菌の100倍までです。それ以上は菌が不安定になり、性能が低下します。まず、元菌を10倍に増やしてから、その増やしたものを種菌にして増やします。10×10=100倍。発酵中、一切攪拌しないで下さい。匂いが毎日変化します。最後は土の匂いになります。◎米糠醗酵ボカシ肥も、もみ殻醗酵ボカシ肥と同様にお作り下さい。但し、一ヶ月位かかります。また、できた物はカチンコチンに固まっていますが、水をかけるとすぐに、ボソボソになります。有機肥料としてお使い下さい。①と②の併用で植物がより元気になります。ナルナルが作る最高の野菜、果物の味をご堪能下さい。

米糠醗酵ボカシ肥の材料

米糠 100リットル
ナルナル菌 10リットル
水 20リットル



面の上に散布します。種一粒にひとつまみ程度の量でかまいません。苗を買ってきて植えた後に、茎の根本に付くように小匙1杯を撒いても良いです。普通の肥料とは違うのでやり過ぎはありません。撒いたら水をあげます。すると、眠っていた菌が活動し、植物と共生を開始します。【注意】根の先に散布しても効果が出ません。必ず植物に茎の根本にくっつけて下さい。

お問い合わせはお気軽に。ナルナル開発、発売元 (詳細はWEBで検索、土耕菌ナルナル)

石井商事(株) 0436-52-0014、相談受付担当携帯 090-2476-1361 (石井一行)